

第1分科会 学校・家庭・地域の協働

テーマ 地域と学校の連携・協働を推進する
～大学の専門性を学びに生かす～

長岡京市社会教育委員会 委員長 島袋 章
(京都西山短期大学客員教授)

1 はじめに

約1,500年前に弟国宮が置かれ、約1,200年前には長岡京の都が置かれた歴史あるまち長岡京市。

本市は、京都盆地の南西に位置し、北は向日市・京都市、東は京都市、南は大山崎町、西は大阪府と隣接し、JR東海道本線、阪急京都線、国道171号線が市内を縦走しており、交通の便に恵まれている。東西約6.5km、南北約4.3km、総面積19.18km²に、約82,000人の市民が暮らしている。

市内には史跡乙訓古墳群を構成する首長墓や、勝龍寺城などの城館跡、乙訓寺・長岡天満宮といった寺社など、数多くの文化遺産があり、豊かな歴史と文化を守り育てている。



2 地域学校協働活動におけるボランティア活動

(1) すくすく教室推進事業

① ねらい

文科省が推進する「放課後子ども教室推進事業」を、本市では「すくすく教室」と呼んでいる事業であり、以下をねらいとしている。

- ・子どもたちの居場所づくりとして、定期的に活発な活動ができる場を提供し、多様な学びや体験を通して子どもたちの新たな興味や好奇心を引き出し、わかることの喜びや努力の充実感が味わえようにすること、また、仲間と過ごす楽しさが味わえる場にする
- ・地域住民との出会い・交流の場として、できるだけ多くの地域住民や保護者の参画を得ながら実施していき、あいさつを交わしたりする中で、礼儀や社会規範を教わる場にしていくこと
- ・子どもたちとのふれあいが、高齢者の生きがいづくりの場となること

② 活動内容

各小学校で、校区の特徴を生かし、校区のコーディネーターがさまざまな「教室」を企画し、ボランティアを募りながら活動している。

筍ほりや芋ほり、茄子の収穫をしたり、コマ回しやけん玉などの昔の遊びを経験したり、そろばんや習字の練習をしたり、ドッジボールやバルーン遊びをしたりと、その内容は多彩である。

主に、水曜日の放課後や土曜日の午前中に開催する校区が多い。

(2) 中学校教育支援事業

① ねらい

地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進することを目的にした事業であり、基本的には、地域の方々が、自分自身が今までに蓄積してきた経験や知識を生かし、ボランティアとして生徒への指導支援や先生方の指導補助に当たる。

学校体制を支援するものであり、求められる内容は学校ごとにそれぞれ異なり、支援形態も異なる。

② 活動内容

各中学校のニーズを受け、コーディネーターと学校で実施時間、必要ボランティア人数などを調整しながら活動している。

主な活動としては、教科学習や部活動の支援、学校図書館の書籍整理や生徒への貸出・返却等の支援などがある。

また、その他環境整備や登下校指導など、各学校の求めに応じて様々な学校教育支援を行う。

3 高等学校と市が連携した活動

(1) 立命館高等学校との協働事業

立命館高等学校1年生の総合学習に長岡京市役所が協力している。

「長岡京市に通学している市外の生徒のみなさんに、もっと長岡京のことを知ってもらいたい」という長岡京市役所と、「グローバルな視点もさることながらまずは学校が建っている地域に目を向けてほしい」という立命館高等学校とで協力し実施している。

(2) 総合学習での協働事業

長岡京市役所の各部署が抱える「課題」の解決策を高校生が自ら調べてプレゼンテーションを作成し発表する。

4 大学と市が連携した活動

(1) 京都西山短期大学と長岡京市との協定

① 京都西山短期大学

学校法人京都西山学園が運営する単科の短期大学である。「思いやりの心」を根本として、情報処理力である専門的知識や基礎的人間力であるコミュニケーション能力や礼節力、情報編集力である思考力や判断力を学び、実社会で必要とされる実践力を育むことを教育目標としている。仏教精神を基本とした教育を行い、仏教、みらい創造、国際経営、メディアIT・ビジネス、こども教育（前保育児）の5つのコース、2011年より日本語専修の別科を設置している。

歴史は古く、1280年に光明寺（長岡京市）によって前身である学寮が設置された。1950年に二年制の西山短期大学として、2004年に京都西山短期大学と名称を変更し現在に至っている。

② 事業連携

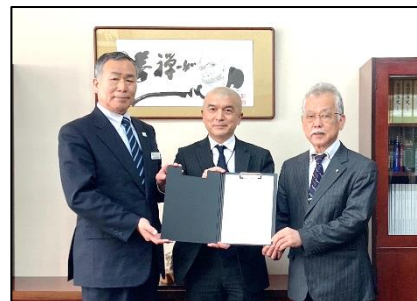
京都西山短期大学は、平成28年度より中央公民館の講座での講師として協力してきた。令和元年度、両機関からの「共同プログラム」と称し、短大生が学びを兼ねた講師役を引き受けて講座を実施。この講座は、公民館子育てプログラムの抽選漏れの救済策として始まった。

その後、幼児家庭教育学級、熟年生き生き講座などの講師を務めた。

令和3年2月、これまでの流れを計画的かつ強靱なものとし、更なる生涯学習の充実、地域学習の振興を図る目的として、生涯学習・地域学習に関する協定を長岡京市教育委員会との間で結んだ。

③ 協定の内容

京都西山短期大学と長岡京市教育委員会とが連携のもと、生涯学習・地域学習の分野で相互に協力し、長岡京市における教育の充実と発展、豊かな地域社会の形成に寄与することを目的とした協定である。その目的を達成するため、「生涯学習の振興に関すること」「地域学習の発展及び人材育成に関すること」「社会課題に教育の点から取り組むこと」について連携・協力することが連携事項として挙げられている。



(2) 関係諸機関との連携

① 講座での講師協力（中央公民館）

中央公民館では、市民向けに様々な講座を開催している。平成28年度からは、本学の専門性を生かし、講座の講師として依頼を受け、協力してきた。

令和元年度からは、共同プロジェクトとして講座を実施している。

② 「市民企画講座」の企画・開催（中央公民館）

市民企画講座は、市民のニーズに迅速に答えることのできる講座として、応募者の方が自ら講師となり、講座を企画・実施するものである。「市民がもつ知識・スキル等を有効に活用する」「市民等に活躍の場を提供する」「より市民のニーズに沿った講座を迅速に実施する」ことを目的としている。

③ 「わくわく講座」の開催（生涯学習団体交流室）

本市では、個人・団体を問わず市民の生涯学習を応援しサポートする拠点として、生涯学習団体交流室を設置している。生涯学習相談員が常勤し、市民の生涯学習に関する相談や支援を行ったり、様々な活動の情報提供を行ったりしている。

「教えたい」人には、人材登録制度の活用を、「学びたい」人には、わくわく講座の受講を薦めている。

5 今後の課題と可能性

地域と学校の連携・協働はさまざまな形で推進されている。京都西山短期大学においても、講座の講師を務めることで生涯学習の一端を担ってきた。今後、生涯学習をさらに進めていくために大学はどんなことができるのか、市民の生涯学習の幅を広げるために、学生がどう関わっていけばよいのかを考えていきたい。

近年「リカレント教育」という言葉をよく耳にする。「リカレント教育」の一環として、大学の専門性を市民の「まなびなおし」に生かせるようにしていきたいと考えている。

本市には、高等学校が3校(公立2校、私立1校)ある。大学だけでなく、それらの高等学校とも、どのような連携ができるのかを探っていきたい。